



笠懸小学校は今年も思いやりも群馬県一を目指します!

やさしく  
たたく  
しまし  
こしく



笠懸小学校

学校だより No.25 2022.11.21

<https://midori-school.ed.jp/kasasho/>

## みどり市父の日大会が行われました

11月12日(土)にみどり市の多世代交流館(旧福岡西小学校)において、みどり市父の日大会が行われました。笠小からは、下の表のみなさんが表彰され、中でも6年生の くんが最優秀作文となり、受賞者を代表して作文を朗読しました。家族への感謝や憧れ、将来に向けた自分の考えなどを立派な態度で朗読することができ、素晴らしかったです。また、1年生の くんは群馬県の優秀作文に入賞し、来る26日(土)に群馬県生涯学習センターにて表彰されます。

この会には、市長様や教育長様など、たくさんの来賓の方々が参加されていましたが、みなさんが家族に対する思いを話してくださいました。その中で「家族とは当たり前にあるものではなく、育まれるもの」、「必要とされ、褒められ、認められ、愛されることにより家族の絆は深まる」という言葉が心に残りました。自分にとって家族とは・・・、子どもとは・・・いろいろなことを考えさせられました。そして、考えたことを伝えることも時には必要だと思います。少し勇気が必要ですが、実践してみたいものです。



代表で作文を朗読する 君

学年	名前	成績
1		優秀賞
4		優秀賞
5		優秀賞
6		最優秀賞

## 「ひまわりの花畑」動画をぜひご覧ください(人権学習にあわせて紹介)

11月8日(火)から年に一度の人権学習週間が実施され、子どもたちは、人権に関わるDVDを視聴したり、標語作成に取り組んだりして、人権を守ることへの理解を深めたところです。人権に関わる学習を通して、仲間はずれや差別、けんかなどのない世の中に向けた思いが大きくふくらんだのではないかと思います。群馬県では、人権問題に関わって右下表の内容を重要課題として定め、子どもから大人までが偏見や差別のない社会づくりに向け、協働していくことになっています。

11月11日(金)の朝行事には、校内テレビ放送で、全校での人権学習を行いました。右の表中の「子どもたち(友だち)」と「インターネットによる人権侵害」に焦点を当て、校長から講話を行いました。友だちに関わることについては、「思いやり群馬県一」を掲げる笠小としては、最も大切な内容であると考えています。日常から、子どもたちの温かで思いやりのある言動には、いつも感心させられているところですが、今回は、「自分の思いやりのある言動が、友だちも、自分のおうちの人も、友だちのおうちの人も幸せにしてくれる。」というお話を6年生の行動を例にお話ししました。また、インターネットによる人権侵害については、「文字だけのやり取りでは、真意が伝わらないこともあり、相互の誤解からトラブルに発展してしまう危険がある。」というお話しをしました。講話の最後には、笠小の第2校歌である「ひまわりの花畑」のアニメーションを紹介し、視聴しながら上記2つのことについて自分を振り返る時間を設けました。ここで視聴したアニメーションは、桐生大学の学生さんたちが笠小のために制作してくれたものです(上の写真の方々)。なお、動画については、各学級のクラスルーム及び学校だよりや学年だよりと同様に保護者みなさんの端末からも視聴できるようになっていますので、ぜひご覧ください。



動画を作成くださった桐生大学のみなさん

- (1) 女性 (2) 子ども (3) 高齢者
- (4) 障がいのある人たち (5) 同和問題
- (6) 外国籍の人たち (7) HIV感染者の人たち
- (8) ハンセン病元患者の人たち (9) 犯罪被害者
- (10) インターネットによる人権侵害 (11) その他

## 演劇鑑賞会を実施しました

音楽鑑賞や演劇鑑賞、絵画、芸能などについては、子どものうちに本物に触れる機会を多くすることが大切だと言われます。笠小でも情操教育の一環として、11月11日（金）に全学年で演劇教室を行いました。今年度は、劇団「銅鑼」による「いのちの花」を鑑賞しました。この演劇のあらすじは、以下のようです。

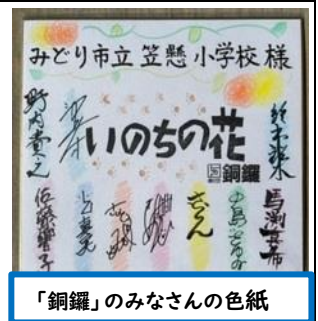


ある日、主人公たち高校生は、見学に訪れた動物愛護センターで、殺処分された動物たちの骨が「ゴミ」として捨てられていることを知る。自分たちにできることはないだろうか？声を上げることもできずに死んでいった動物たちの「いのち」。彼女たちは、動物たちの骨を使って花を咲かせ、蘇らせることを思いつく。名付けて「いのちの花プロジェクト」。彼女らが咲かせた花を受け取ってくれる人はいるのだろうか？

このような物語を基に、ペットの命・家畜の命・人間の命など、いのちってなんだろう？を子どもたちに考えさせる内容でした。一人一人の命・一つ一つの命はとも尊くて重いことは、言葉として、知識として知っています。誰もが、あたりまえのことと思っていることです。しかし、本当にそれはあたりまえのこととなっているのか、考えていきましょう。食事をはじめるときに「命をいただきます」は、毎回気持ちを込めて言いたいものです。以下、子どもの感想を載せます。

今日は、すてきな劇をありがとうございました。私自身も犬が好きなので、殺処分のシーンはとても胸が痛みました。殺処分をゼロにすることは、どこかの1人や2人が行動しても簡単に変わるような問題ではないと思うので、もっと国や政治が考えてもいいんじゃないかと思いました。この劇を観て、命の大切さについて知ることができました。私もできることをしていこうと思いました。(6年生)

今日はステキな劇をありがとうございました。今日の演劇で「命って何だろう」「なんで命は大切なんだろう」と改めて考えられました。わたしは、「生きることは、におうことなんだよ」のところがおもしろくて好きです。わたしは、命の大切さを考えながら生きていきます。悲しくてなみだがでました。劇団のみなさん、今日は本当にありがとうございました。(4年生)



「銅鑼」のみなさんの色紙

## 令和4年度第1回学校評価の結果⑥「自由記述より」その3

保護者の皆様からのご意見（一部抜粋してあります）			今後の取組や対応
観点	肯定的なご意見	課題と考えられるご意見	
連携・協働・通信など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供と学校職員、親が一丸となって連携しているところ。</li> <li>・先生方が児童のことを良く見てくださっているの、安心して学校に通わせられます。</li> <li>・少人数になったこと</li> <li>・子どもをよく見て、よく理解してくださっていると思います。</li> <li>・保護者と先生とのコミュニケーションを図ることは重要だと考えます。引き続きお願いします。</li> <li>・人数が減ったぶん、のびのびと学校生活を過ごせたらいいなと思っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペーパーレスは解りますが、学年通信は紙で配ってほしい。(複数)</li> <li>・学年だよりは紙にしてほしい。タブレットでしか読めなくなりましたが、全然見せてもらえません。お便りの内容も親のメールに飛ばして欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年だよりや学校だよりをタブレットだけでなく、<u>保護者の皆様の端末に直接お届けできるよう改善しました。</u>利便性は向上したでしょうか？これからも更に連携が密接になる手立てをできるだけ講じてまいります。</li> <li>・連携や協働、コミュニケーションについては、肯定的なご意見をいただき、たいへんありがたいです。引き続きよろしく申し上げます。</li> <li>・少人数になったことのメリットはたくさんあります。施設・設備のゆとりはもちろんのこと、子どもたちを深く理解する教職員の数が増えたことも大きいです。また、子どもたちのためになることを効率よく行えるようになったこともメリットです。笠小のよき伝統と併せて、少人数になったことのよさを上乗せしていけるよう、これからも努力してまいります。</li> </ul>